

何故、「カ左のライターをボランティアでやるようになったのか？」

それは、原山さんのおかげ。初めてコーヒーを飲みに行った時に、隅っこで一人で飲んでる時に声をかけてくれたから。話し相手になってもらったから。そして他の入居者に、「新しく入った人だから仲良くしてあげてね」と紹介してくれました。その内、話し相手が出来、カ左が楽しくなりました。

今度は、ライターをやってみたいと思い現在に至ります。

その原山さんを辿れば、抱樸館のおかげ、青木館長をはじめ田中さんとスタッフのおかげだと思います。初めての面接の時、緊張してる自分に、田中さんが、帰りの車中、「大丈夫だから、安心して」の一言があったから。自分は、抱樸館を第二の故郷だと思い、抱樸館に育まれたと思っています。スタッフみんなが、あったかいんです。みんなが、味方になってくれる。みんなが励ましてくれる。そしてみんながアドバイスしてくれるんです。

そんな抱樸館が、自分は大好きです。抱樸館に居たという事を誇りに思っています。ファイバーに入るきっかけになったのは、ドキュメント番組で、焼け野原で、小さな子供達が、銅線を焼いて、お金に変えるテレビを見、自分にも何か役に立てる事はないか？と思っていた矢先にファイバーの説明会があり、「これだ。」と思い応募したのがきっかけでした。

今週から、ファイバーが、週5日勤務になりますが、頑張りたいと思います。

小さな子供達が、手足に、火傷を負いながら、家計を手助けしてるのに、負けては、いられませんよね。

自分にとって抱樸館は、とても大きな存在、なくてはならない存在だと確信しています。これからも、頑張っ<sup>て</sup>生きて行きますので、ヨロシお願いします。